

青年期におけるアイデンティティ類型と過剰適応の関係—大学生の学年間の横断的比較—

○竹本美穂・沖林洋平
(山口大学教育学部)

目的

本研究では、青年期のアイデンティティ意識の発達に関する研究を行った。現代青年のアイデンティティの構成要因として、本研究ではモラトリアムと過剰適応を取り上げることとした。高坂(2016)は、モラトリアムの特徴を自立欲求、全能感、遅れをとることへの不安から構成すると考え尺度を作成した。モラトリアムの特徴と大学生活で重視する活動の種類の関係について検討した。その結果、リスク回避型モラトリアムを見出している。このようなリスク回避型モラトリアムの表現として、本研究では過剰適応の影響を検討することとした。山田(2010)は、青年期における過剰適応と見捨てられ抑うつとの関連を検討した。山田(2010)は、過剰適応を「『よい子』のように自分の感情や欲求を無理に抑圧してでも、周囲の期待や要求に応える努力を行い、表面的には社会に適応しているように見える傾向」と定義した。このような概念的定義に基づき、5因子によって構成される過剰適応尺度を作成した。

本研究では、モラトリアムや過剰適応に及ぼす青年期の属性情報の影響を検討することとした。本研究では、大学生と専門学生という学校種、1年生と4年生という学年を属性として取り上げた。

方法

調査時期 本研究の調査は、2024年6月から8月にかけて実施された。

調査参加者 本研究の調査参加者は、大学生と専門学生あわせて220名であった。

調査項目 1. 自立欲求項目・全能感項目・後れをとることへの不安項目 15項目(高坂, 2016): 3つのモラトリアムの特徴と考えられる自立欲求、全能感、後れをとることへの不安(小此木, 1978; 村澤, 2012)を参考に作成(1「まったくあてはまらない」、5「とてもあてはまる」の5件法)、2. 過剰適応尺度(山田, 2010)25項目(1「まったくあてはまらない」、5「とてもあてはまる」の5件法)、属性に関する項目(職業、学年、性別、第一志望か

否か、入試形態、居住形態)

手続き Google formsに調査用サイトを作成し、各自のペースで回答を求めた。

結果と考察

モラトリアムの3つの特徴の下位因子の記述統計量をTable1に示した。

Table1 モラトリアムの特徴の記述統計量

	平均値	標準偏差
自立欲求	3.3	0.79
全能感	2.7	0.9
後れをとることへの不安	3.54	0.93

過剰適応尺度の下位因子の記述統計量をTable2に示した。

Table2 過剰適応尺度の記述統計量

	平均値	標準偏差
自己抑制	3.1	0.93
人からよく思われたい欲求	3.82	0.83
自己不全感	3.22	0.9
他者配慮	3.34	0.83
期待に沿う努力	3.32	0.89

過剰適応の下位因子の得点と学校種の関係を図1に示した。過剰適応下位因子を参加者内要因、学校種を参加者間要因とする2要因分散分析の結果、交互作用は有意傾向であった($F(4,872) = 2.28, p = 0.059$)。

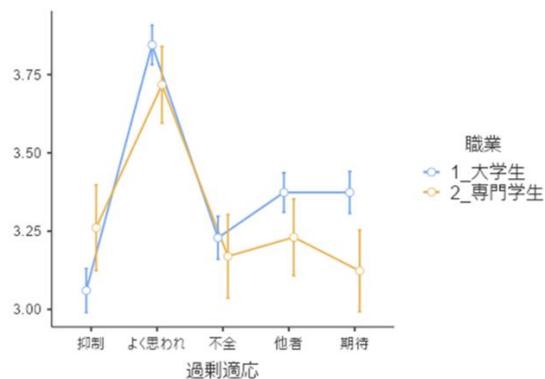


Figure2 過剰適応の因子別の得点と職業の関係(エラーバーは標準誤差)